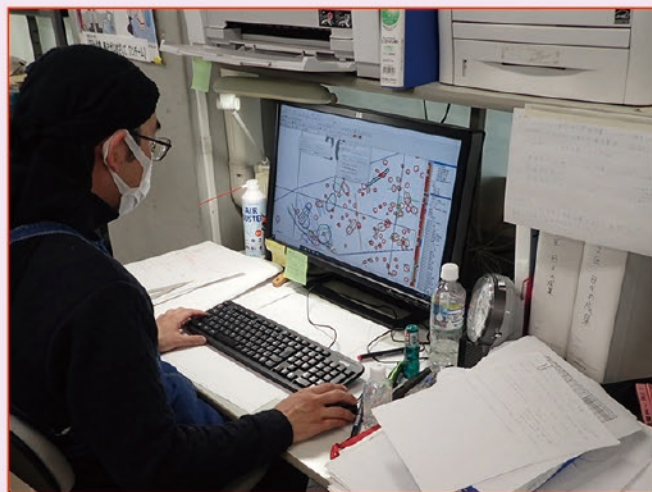
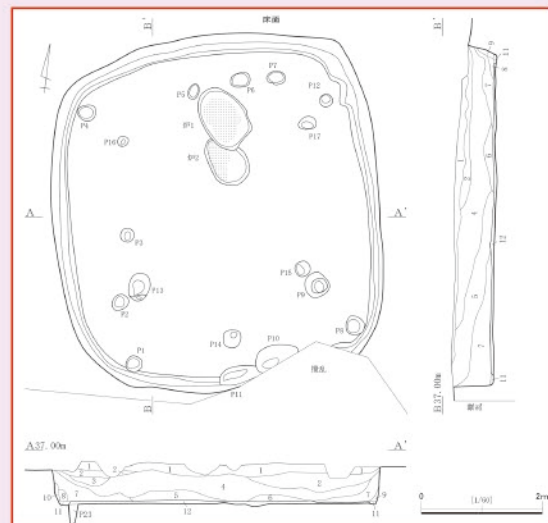




遺構のデジタル処理

それぞれの遺構の平面図・断面図を集め、必要な図面を図版の形にレイアウトします。パソコンを使用してデジタルで図版を作成します。



デジタル処理した竪穴住居の図面

〔財団調査報告 320「生麦八幡前遺跡」より〕



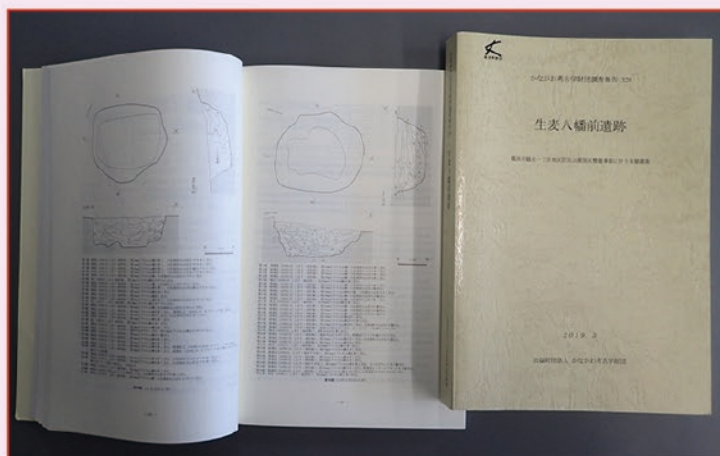
遺物の写真撮影



土器の写真（左）と土器の実測図（右）〔財団HPより〕

実測図は土器の正確な形や、どうやって作られているかを細かく図面に現します。

写真は、表情・雰囲気・質感を表します。



刊行された発掘調査報告書

遺物と遺構の図版と写真図版に文字原稿を加え、印刷をして「発掘調査報告書」を刊行します。

★ 報告書が刊行されたら整理作業も終了です。研究機関や地元の図書館などへ送られて活用されます。

★ 遺物や図面・写真は、無くなる遺跡のかわりに後世へ残すため、自治体によって保管されます。

野庭出土品整理室作業見学会

令和3(2021)年1月23日(土)

主催：公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL：045-252-8689(代) URL: <https://www.kaf.or.jp>



地域の特色ある
埋蔵文化財活用事業



令和2年度 野庭出土品整理室作業見学会

出土品整理作業とは

発掘調査が終わると、泥の付いた土器や石器、現場で取った図面や写真が残ります。これら発掘調査の成果をまとめあげ、どのような遺跡なのか明らかにして「発掘調査報告書」という本にしていくな作業が出土品整理作業です。発掘調査報告書は、地域の歴史を後世に残す大事なものです。細かい作業を積み重ねて、1冊の本を作り上げていきます。

出土品整理作業に入る前に

発掘調査が終わると、まず調査で出土した土器や石器等の遺物の発見届を、1週間以内に警察に届けます。まず拾得物として届出を出し、所定の期間が過ぎると文化財として認定されます。

出土品整理のやり方を
紹介していきます



まこ
真弧



ノギス

めんそうふで
面相筆とポスターカラー



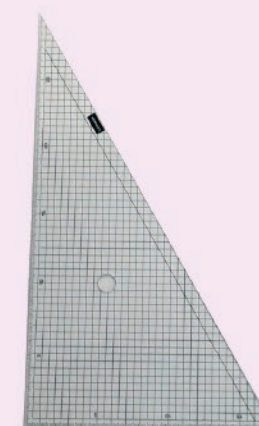
ぼくたく
墨拓とタンポ



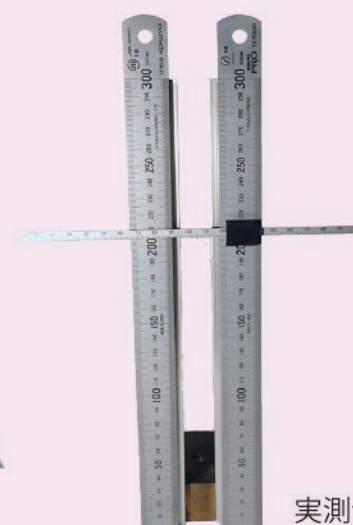
ディバイダー



キャリパー



三角定規



実測台



いろいろな
道具を使う
のねー

真弧：薄い竹で出来ていて、土器や石器の形を取るときに使います。

ディバイダー：遺物の文様の2点間の長さを写し取るときに使います。

ノギス：遺物の幅や厚さを測るときに使います。

キャリパー：遺物の厚さを測るときに使います。

実測台・三角定規：遺物の図面を書く時に大きさを測るために使います。

面相筆とポスターカラー：遺物に出土した場所等の情報を書くのに使います。

墨拓とタンポ：土器や銭の拓本を取る時に、墨をつけて叩いて模様を写し取ります。